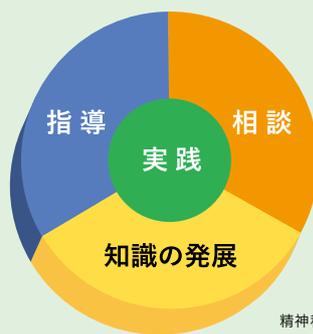


精神科認定看護師は さまざまな場で 活躍しています！

精神科認定看護師は、病院や地域のさまざまな部署で、「質の高い看護実践」「相談」「指導」「知識の発展」の役割を担っています。取り組みの一端を紹介します。



精神科認定看護師の役割

精神科認定看護師を 知っていますか？

患者さんを深く知ることが、 行動制限最小化への道



平江将樹 (ひらえ・まさき)
公益財団法人慈愛会奄美病院
急性期病棟副院長、精神科認定看護師
(鹿児島県) (2019年登録)



スタッフへのフィードバック

【管理者のコメント】

平江さんはいつも穏やかに話をよく聞いてくれるので、スタッフは相談しやすいようです。根拠にもとづいた説明や助言を受けて、安心してケアに向かっています。行動制限最小化委員会でもリーダーシップをとり、さまざまな提案をしています。富丸千奈美 (とみまる・ちなみ) 同看護師長

私はスタッフに「行動制限を最小化するためには患者さんの強みを探すことが大切である」と伝えています。そのためには、隔離や身体的拘束となった経緯やきっかけを詳しく知ることが大切です。まずはいねいな接遇を心がけて、話を聞いています。

当院には隔離室利用者専用の中庭があり、患者さんと一緒に景色を楽しみ、光を浴びたり、風を感じることができます。また、隔離室専用デイルームで音楽や読書を楽しみながら、リラックスできる状況がつけると、普段は聞けない本音を聞ける機会が増えます。

行動制限が行われる理由の1つに、スタッフが患者さんに対して感じる不安があげられます。そこに夜勤やマンパワー不足の課題が加わることもあります。スタッフの不安を解消するには、患者さんを深く知ることができているかどうか重要なポイントだと考えています。

当院では行動制限評価シートを活用し、ある程度統一した看護を提供していますが、さらに個性を考慮して患者さんを深く知ることができるように取り組んでいます。たとえば患者さんがどういふときに安らいで過ごせるのかを家族に聞きとり、その経験をふまえて取り組みを模索し、隔離解除につなげたこともありました。

このように、いい効果が生まれたときにはスタッフへのフィードバックを意識的に行っています。こうした取り組みが不安を軽減し、患者さんの行動拡大や隔離解除にもつながっています。

児童・思春期の子どもと 関係をつくる

——言葉ではなく、行動で示すことから



磯部達男 (いそべ・たつお)
一般財団法人聖マリアンナ会東横恵
愛病院児童思春期病棟 主任、精
神科認定看護師 (神奈川県) (2018
年登録)



【管理者のコメント】

個別の振り返りの仕方や、話のもっていき方など、細かい対応がほかのスタッフのモデルになっていると感じます。また、患者さんとのやりとりを記録にしていねいに残していることで、スタッフが読みながら対応を学んでいる場面も、よく見かけます。岩倉昌子 (いわくら・まさこ) 同看護課長

私は児童思春期病棟に勤務しています。ケアを導入する前には、子どもに「あなたはどなりたいのか」を聞くことから出発しています。そして、「私たちはこう考えたけど、あなたはどう思う?」と聞き、すり合わせを重ねたうえで、その子に合ったケアを提案しています。大人も未熟ですから、その子を中心に据えて「あなたはどうか?」というやりとりをくり返すことがいちばん大切なケアだと考えています。

大人から暴力を受けたり、裏切られ続けてきた子どもは「ここは安全な場所なのか? この人は敵なのでは?」という思いをもっている傾向があるため、関係づくりはスムーズにいきません。まずは「あなたの敵ではない」ということを、言葉ではなく、行動で伝え続けています。一緒に掃除したり、買い物に行ったり……それを地道にやり続けることが看護の強みだと考えています。

また、安心安全をベースに、自分が好きなものや夢中になれるものを自由に話せる環境づくりを常に意識しています。看護職が「完璧なモデルであること」を意識すると、お互いに苦しくなってしまう。子どもにとっても、スタッフにとっても「ゆっくりでも大丈夫なんだ」「ときにはサボってもいいんだ」「こんな大人になってもいいんだ」と感じることができる。そのような空気感を病棟全体につくれるように、ゆっくり対応し、穏やかに落ち着いた環境を整えるように努めています。



今年度、精神科認定看護師は全国で923人になりました。2025年度からは新制度に改正され、さらにそのすぐれた実践能力が期待されています。今回は看護実践の実際や制度改正のポイントをご紹介します。

利用者中心の看護を、地域から発信！

—病院、多職種とつながって



高見良之 (たかみ・よしゆき)
社会福祉法人小湊会訪問看護ステーションスマイル
訪問看護師、精神科認定看護師 (徳島県)
(2018年登録)

私は日々の訪問看護で、利用者さんとの「つながり」、そして、多職種や他施設との「つながり」を大切に実践しています。自らがさまざまな職種と顔の見える関係をつくることで、利用者さんが安心してさまざまな分野の相談ができ、安心・安全な地域生活を送ることができるように心がけています。

利用者さんにわずかでも変化があれば、主治医はもちろん、関係職種と電話で連絡をとり、直接話をしに行っています。再入院する場合でも利用者さん主体の看護を活かせるよう、入院前の様子や生活状況、訪問看護でのかわりについて看護サマリーを作成し、病棟看護師に説明して手渡しています。休息入院する場合は、訪問看護時に「病院の栄養士に自宅での食事づくりについて相談する」「リハビリ室で運動して体力をつける」など入院中の目標を立て、病棟看護師と共有しています。

入院中は1～2週間に1回ぐらいの割合で面会に行き、利用者さんの状況を確認し、病棟の担当看護師と情報交換しています。利用者さんの気持ちを聞きながら、地域で待っていることを伝え、地域とのつながりを絶やさないようにしています。

今後も利用者さんの自律性と思い尊重し、地域が中心になってこれからの医療・看護を発信していきたいと考えています。



スタッフとミーティング

一般病棟の看護職も

こころのケアができる自信を



矢島亜美 (やじま・つくみ)
諏訪赤十字病院 リエゾンチーム
精神科認定看護師 (長野県)
(2020年登録)

私は院内でリエゾンチームに所属しています。一般病棟の看護師からの依頼を受け、精神疾患の既往のある患者さんや、身体疾患の治療中に発生するせん妄や抑うつ、希死念慮のある患者さんへのケアの介入をしています。

たとえば一般病棟で「家に帰れないなら、いっそ殺してほしい」という患者さんの言葉を聞いた看護師から依頼を受けることもあります。このようなときは、患者さんのケアに私がすぐに直接介入するのではなく、まずは患者さんの言葉を看護師が聞き流さずにこころに重く受けとめてくれたことを労います。そして、看護師の戸惑いを当該病棟のチームで共有し、リスクアセスメントと予防、かわりについて一緒に考えていきます。無事退院できた後、ケースをみんなで振り返ることもあります。

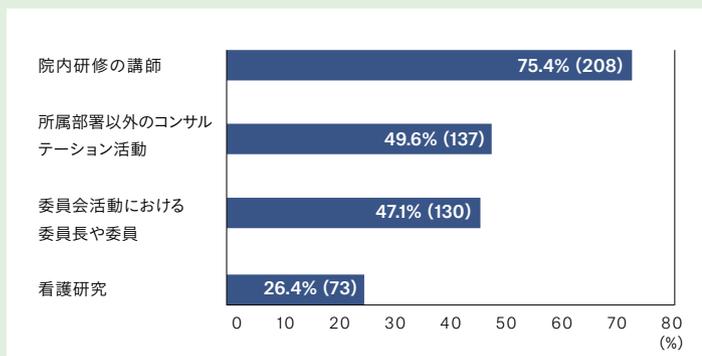
このようにかかわることで、一般病棟の看護師には「こころのケアは、自分たちでもできるのだ」という自信をもってほしいと思っています。看護師は皆、資格取得のために診療科に関係なく、「患者のこころをケアする」ことについて膨大な学習をしています。身体疾患で療養する患者さんのこころの変化を感じとり、その気持ちに自然に寄り添い、自分のかかわりの意味を確かめてケアできる看護師になってほしいと願っています。



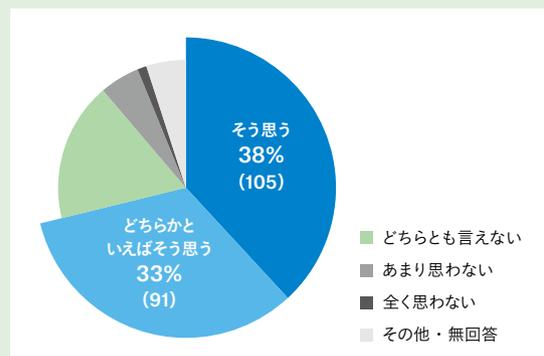
リエゾンチームでカンファレンス

看護管理者に聞きました！

Q 組織で精神科認定看護師をどう活用している？
(複数回答)(回答数:276)



Q 精神科認定看護師の直接ケアは、看護実践の質の向上に寄していると思う？(回答数:276)



「精神科認定看護師の活動状況に関するアンケート」より
* 2024年3～4月、日本精神科看護協会実施